

社会教育の振興



佐々木良助

(平鹿郡雄物川町)

佐々木氏は、明治三十六年秋田師範学校卒業後、教職につき、県内各学校長、県視学を歴任した。氏は教育の根本目標を健全なる人間形成と労作教育におき、青少年の健全育成と職業教育に精進した。郷里福地小学校長時代は農業補習学校長を兼任して堅実なる農村青年の育成に努力し、横手工業学校長としては真摯なる技術者の養成に努力し、県立横手工業高等学校の建設に奔走した。

氏は夙に社会教育の必要性を痛感し、明治三十九年北浦小学校に赴任するや早速青年団を作り、良識ある青年の育成と体育の向上に努力した。万事に熱意とたくましい行動力を示す氏は、良識こそ健全なる社会を形成する鍵であり、健康は積極的行動の基盤であるとの信念をもつてその後ゆくところ幾多の青年団を育成し、優良青年団として文部省表彰を受けたものが多いのも当然の帰結である。昭和十年、顕著なる功績が認められて最初の秋田県社会教育主事となり、勸労青少年の教育に新分野を開拓し、後、公民館長、県公民館連絡協議会長、県社会教育委員として、社会教育活動の陣頭にたつて活躍した。更に昭和二十二年挙げられて福地村々長に就任するや行政と教育の一体化を計り、民度の昂揚、生産の振興、村政の発展に輝かしい実績をあげ、雄物川改修工事の施行に当つて工事予定地内の住家の移転を何の支障もなく完了したことは、氏の行政的手腕の偉大さと徳望の高きを如実に物語るものである。現在も県社会教育委員長として第一線にあり、又雄物川町中央公民館長として新自治体建設運動に挺身している。

民生の安定



早川 かい

(秋田 市)

早川氏は、大正十一年基督教婦人矯風会秋田支部を設立し、自宅を解放して売春婦、浮浪母子等いわゆる特殊婦人の身上相談を始め、その自立更生に着手し、また方面委員、人権擁護委員として三十五年間にわたり、ひたすら社会福祉の増進に尽瘁した。

特に全国に魁けて、秋田県会が公娼廃止を決議するにおよび、保護、更生の措置を要する者が激増し、收容保護の必要を痛感して、昭和八年、全県民を啓発説得して浄財を集め、独立建物秋田婦人ホームを建設して保護に当たるとともに、これら婦人の子供達には託児所城南園を設立して、働く母と子のために尽力した。

戦後社会福祉事業の諸制度が整備されるに伴い、婦人ホームは生活保護法による更生施設とし、また城南園は児童福祉法による保育所として認可を得て、收容人員も逐次増加し、経営主体も社会福祉法人となり、自から理事長として母子の福祉に飛躍的發展を続けている。

氏が婦人の身をもつて、秋田県社会福祉事業の先覚者の一人として、今日まで終始一貫社会福祉施設の経営者として、特に売春問題については、愛情と熱意を傾けて、関係機関と密接な連絡のもとに尽されて来た功績はまことに大きい。

木工業の振興



長崎源之助

(湯沢市)

長崎氏は、大正三年四月、一職工として秋田木工株式会社に入社以来今日まで四十三年間に亘り、終始一貫、困難なる曲木技術の開拓に献身して来た。即ち大正十一年同社技師となり農商務省海外実業練習生として米、英、仏、墺等の諸国に派遣され各国の木工業を研究し、大正十四年帰朝するやその製造方法ならびに経営面に一大改革を断行し、爾来、デザイン、品質技術及び生産量もとみに上昇した。以後、支配人、取締役を経て昭和二十二年六月社長に就任、この間身を曲木木工の研究に打ち込み、現在なお壯者を凌ぐ情熱をもつて従業員二百有余人を有する会社の先頭に立ち不断の精進を続けている。

氏はまた、秋田県家具建具商工業協同組合理事、秋田県物産即売出品協会々長、通産省木竹製品輸出部会議委員、全国輸出家具協会長の要職にあり、県内外の木工業振興に尽力し椅子類の構造、曲木用機械の改良等十数件を数え、その製品は通商産業大臣賞等数々の賞を獲得するなど、ぶな材加工場として全国有数の工場たらしめ、本県唯一の輸出工場として諸外国にも相当の輸出実績を有していることは偏に氏のたゆまざる努力と、旺盛なる研究心と実行力によるものであつて、現在も絶えずこれが改良発達に努めており、本県木工業の振興に尽力した功績はまことに大きい。

米の多収穫



畠山 喜作

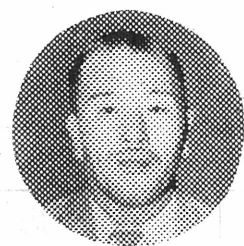
(北秋田郡鷹巣町)

北秋田郡鷹巣町綴子二本杉部落は、戸数二十余戸、一戸平均田畑合せて一町二反歩を所有する純農地区であるが、山と山とに囲まれ細長く田地が散在しているため、不便の上もなく、然も夜は急激に温度が下り、谷が深いため水が冷い。このような悪条件にあるため、反当収量は少く、常に貧困に悩まれていた。

畠山氏は、大正七年以来このような山間部でも努力さえしたら立派な多収穫田に持ち込むことが出来るという確信のもとに長年辛苦研究を重ねた結果、その努力がみのり、昭和十八年の種苗交換会を皮切りに七回も水稲第一位知事賞を獲得し、同二十九年には農林大臣より米作り日本一として冷害技術賞を受け、その間新品種県北一号を生み出す等ともに受けた冷害を克服して三石八斗五升の収量を挙げ、全国有数の篤農家として讃えられている。従つて、氏の力作している耕地を視察する人々は、近隣郡市をはじめ、遠くは県外からも足を運んでいる実情にあり、殊に稔りの秋になると鷹巣、金足農高の生徒達も交えて毎日を賑っている。

又、氏は種苗交換会や機関紙等あらゆる機会を通じ、日頃の試験研究の成果を発表し、農業指導者として本県の農業振興に貢献するところが大きい。

体 育 の 振 興



伊 達 義 行

(秋 田 市)

伊達氏は、大正十一年東京高等師範学校卒業後教職につき、秋田中学校、秋田鉱山専門学校を経て、昭和二十七年秋田大学教授となつて今日に至つた。

この間、本県柔道の父と仰がれた先代伊達義行氏の跡を受け継ぎ、体育の指導者として、特に柔道を通じて父子二代にわたり青少年の育成に献身し、大正十二年には秋田県柔道有段者会を全国に魁けて組織する等県柔道界の基礎を固めた。戦後、柔道の再興のため、あらゆる困難を克服して、昭和二十三年秋田県柔道連盟を結成してますます柔道の振興に努め、昭和二十七年には全日本東西対抗柔道大会を本県において開催する等、着実なる努力を続け、遂に今日夏井昇吉選手等幾多の名選手を輩出し、柔道秋田の名を全国に高揚するに至つた。

現在日本柔道連盟理事、評議員、秋田県柔道連盟会長として後輩の育成指導にあたり、よき師表として仰がれている。三十五年間教育者として本県柔道の振興に尽瘁された氏の功労は、秋田県柔道の歴史に不滅の足跡を残している。

音楽文化の高揚



小野 崎 晋 三

(秋 田 市)

小野崎氏は、父祖三代にわたる教育の家に生をうけ、昭和二年東京音楽学校を卒業後、昭和五年本荘高等女学校教諭として本県に赴任し、由利郡音楽研究会を結成して副会長となり音楽教育と指導に着手した。

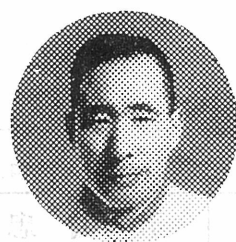
間もなく、秋田県師範学校に転じたが、当時緊迫した国際情勢の下に暗い世相を反映してか、頹廢的な流行歌が巷に溢れていた。氏は青少年に及ぼす影響を憂慮して、昭和七年東北地方に魁けて教員の有志をもつて秋田県教育音楽協会を組織して理事長となり音楽文化の浄化に努め、後に全県的に支部が結成されるに至り会長となつた。この間、秋田市内学校の教員をもつて合唱団を作り、毎週一回秋田放送局から放送を行う等、活発な運動を展開し、この協会は終戦まで続いた。

また昭和十二年頃から師範学校教育の中に、プラスバンドを採りあげ、全県的にバンドを組織して秋田県吹奏楽連盟とし、その数は県内に百二、三十にも及んだ。

当時氏の指導をうけた中堅が現在各学校、職場の指導者として活躍を続けており、その影響をうけて近年益々高まりつゝあることは全国的にも稀に見られるところである。戦後いち早く秋田県音楽連盟を作り音楽文化の再興を図り、昭和二十六年には秋田県音楽教育研究会としてその基盤を築きあげた。

合唱運動には特に力を注ぎ、昭和二十六年以来合唱指導講習会を開催して、教員のみならず各職場における合唱団の育成に尽力した。これまで県内小、中学校の校歌に数々の力作を残していることも氏の徳望の然らしむるところである。二十五年余にわたり教育者として、本県音楽文化の高揚に尽した功績はまことに大きい。

勤 労 者 の 模 範



岸 部 栄 太 郎

(能 代 市)

岸部氏は、能代市杉本木材会社従業員として勤続すること四十一年に及び、勤務に精励するかたわら鋸の特殊目立の研究を重ねた。

従来鋸の目立技術は製材、木工製品の死命を制する秘伝とされ、固い殻の中にとちこもっていたが、氏は昭和二十八年目立研究会の結成を提唱して、旧来の因襲を打破し、これら目立技術の研究発表と交流を行い、品質の向上、増産、歩止りの向上等に著しい効果を挙げ、この研究に対しては県から補助金を交付されるに至り、現在副会長として一層の研鑽を続けている。

職場にあつては職頭として、常に従業員の指導、工場内外における災害の防止に留意する等、会社、従業員の信望をあつめ、他方、秋田県木材産業労働組合副会長としては三期に及び、組合運動のよき指導者として先頭に立ち、産業の発展につとめている。

また家庭にあつては多年町内自治会長として町内自治のため奔走している。

氏が四十余年間営々として勤労に精励し、産業の振興に尽した功績は勤労者の模範とするに足るものである。